

[トピックス]

いちご・トマトにおける灰色かび病の 薬剤感受性を調査しました

灰色かび病は、葉や茎、果実に発生する病害です。特に果実への被害が大きく、県内の主要園芸品目であるいちごやトマトでは、収量低下の原因となる重要病害です(写真1、2)。

本病の防除は、殺菌剤による化学的防除が中心に行われていますが、薬剤耐性菌の発生による防除効果の低下が懸念されており、耐性菌が確認された薬剤については、使用中止や使用回数の制限が必要です。そこで、現場での効果的な薬剤防除に資するため、県内のいちご及びトマトを対象に薬剤感受性検定を実施しました。

その結果、チオファネートメチル、プロシミドン、アゾキシストロビン、ボスカリド、ベンチオピラドの5剤に対して、多くの耐性菌が確認されました(図1)。

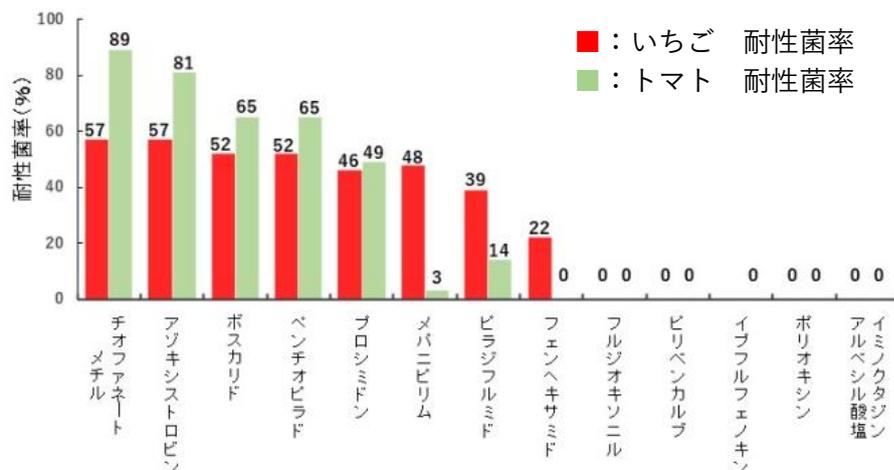
灰色かび病の効果的な防除のためには、発病前から作用機構の異なる薬剤をローテーション散布し、耐性菌の発達を抑制することが重要です。



写真1 イチゴ灰色かび病



写真2 トマト灰色かび病



注 イブフルフェノキンはイチゴに登録がないためイチゴ灰色かび病菌には使用していない。

図1 イチゴ及びトマト灰色かび病菌の各種薬剤に対する感受性

(環境技術指導部 防除課)

[お知らせ]

病害虫発生予察情報を発表しました

- ・令和7(2025)年度 病害虫発生予察注意報第3号(水稻・斑点米カメムシ類)
- ・植物防疫ニュース No.11(りんごの斑点落葉病と褐斑病の発生増加に注意しましょう!)
- ・植物防疫ニュース No.12(果樹類のハダニ類が多いため早期発見、防除に努めましょう!)
- ・植物防疫ニュース No.13(ハスモンヨトウ、オオタバコガの発生が多いため早期発見、早期防除に努めましょう!)

皆様の声をお聞かせください!!

発行者 栃木県農業総合研究センター
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町 1080
Tel 028-665-1241 (代表) Fax 028-665-1759
MAIL nougyou-s@pref.tochigi.lg.jp

発行日 令和7(2025)年7月21日
事務局 研究開発部
Tel 028-665-1264 (直通)
当ニュース記事の無断転載を禁止します。